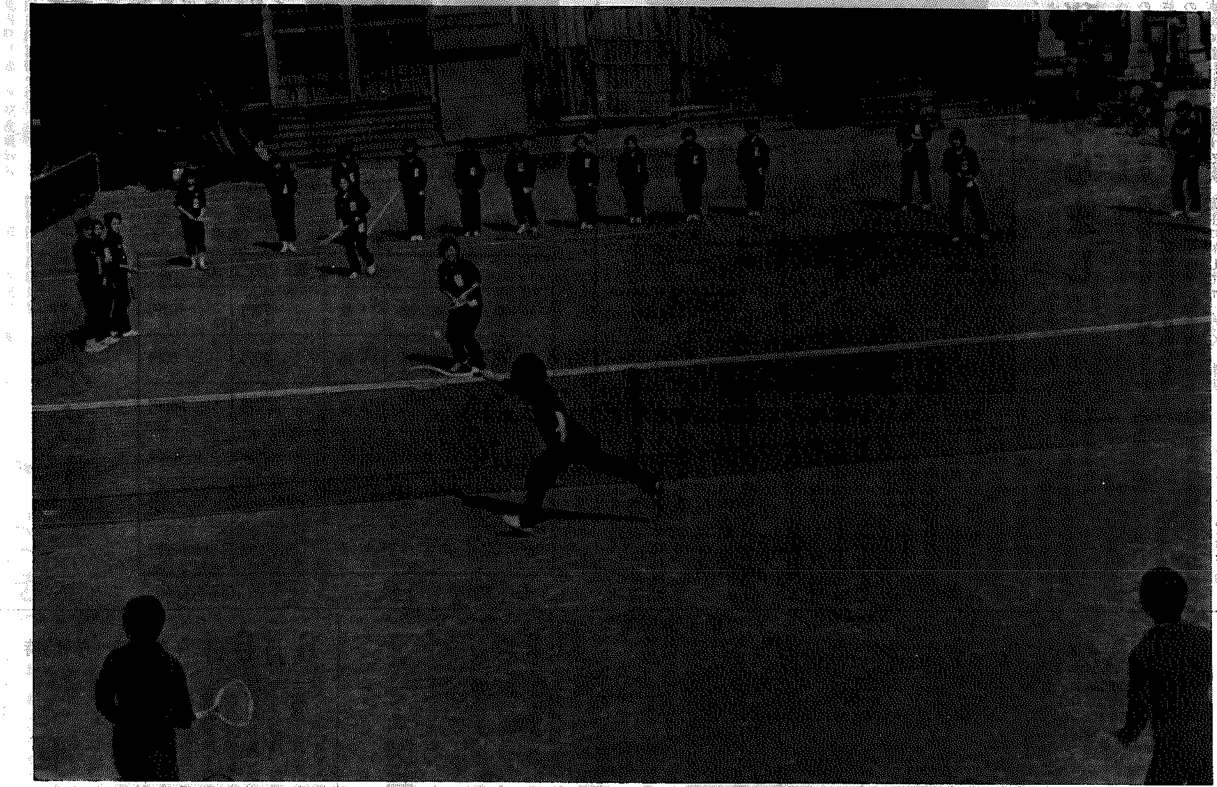
'78 5
No. 72
昭和53年5月1日発行
発行　横越村役場

広報 よこごし

おもな内容

1. 水道週間（1P）
2. 53年度村税条例の一部改正（2P）
3. 区長会議開催される（2P）
4. 108名の新入生（3P）
5. 小中学校職員の異動（3P）
6. 交通事故をなくそう（3P）
7. みんなの社会教育決まる（4P）



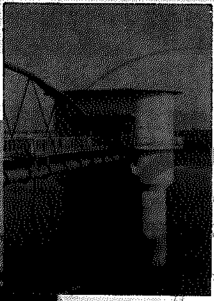
躍動シリーズ④　テニス

水道週間

6月1日〜7日

私達の生活に一日も欠くことのできない水、この水も限られた水資源と高い経費をかけてつくられているわけです から大切にしなければなりません。その水を清浄に豊富に供給する水道を考え、理解と関心を高め、健全な発展を図る国民的な運動──それが『水道週間』です。この水道週間も今年で二十回目をむかえ新潟市と横越村ではこの期間中、阿賀野川浄水場を公開し一般住民のみなさんから水道事業を広く理解し、関心を高めてもらうことになっています。

※御来場の方には蛇口パッキンをプレゼントいたします。



取水塔

豊かな生活環境

村では昭和三十五年広域簡易水道として、主要施設を新津市満願寺浄水場内に建設し、新津市と共に当時は相当の余裕をもって給水を開始しましたが、近年の給水人口増加に伴う水需要の増加により一部地域に給水不足をきたしました。そこで新潟市の阿賀野川浄水場の一部給水を契機に第一次拡張事業として、同浄水場を新潟市と共同利用することになりました。この通水式が四月一日新潟市、横越村、そして今まで共同利用してきた新津市等の関係者多数の出席のもとで阿賀野川浄水場でおこなわれ横越村長の手でバルブが開かれ四五〇〇㎥／日、給水人口一万人が確保され、地域の発展と豊かな生活環境に大きく寄与しました。

通水式

阿賀野川浄水場一般公開

6月6日（火）午前10時〜午後3時

横雲橋

四月の公民館は分館長会議から始まり、分館管理人会議、社会教育委員会議、運営審議委員会議等で、会議、会議で終った様な感がした。そして内容も社会教育、分館開放等熱心に討議された。所で社会生活の馴れについて、こゝで今一度振り返って見る必要があると思う。「俺が俺が。」と云っても自分一人では何も出来ない。考えて見ると余りにも無力なのが自分である。あるとあらゆる物からオカゲを蒙り、ヤット生きて居るのに対して「アリガタイ」。と思っていたいのが常である。めいめいが現在を、そして、維持してくれるものに感謝し、それに対して何をもって報いたらよいかを考え、自分とふれあっている世の中の為に出来るだけの事を尽すより以外に道はない。何も慈善事業に寄付するだけが恩に報ゆる方法なのではない。恩に感ずるとは、オカゲを蒙っている人なり、物なりの事を「思う」事である「オカゲ様で」、と「思う」事が、「恩」を感ずる事である。思ってさえおれば何かと恩に報いる様な結果が出る。「恩」は即ち「思」であり、字も良く似ている。不思議な事には英語も『思う』[illegible]と『感謝する』[illegible]と似ておりドイツ語でも『思う』は[illegible]で『感謝する』は[illegible]である。恩を返すと云うのは何も特別に返礼する事ではないと思う。物をもらったから物を返すと云う事はしなくとも、オカゲを蒙っていると云う事を思えば、やがて大きな恩に報いる事になるのではないだろうか。来村する人々が異口をそろえて「良い公民館ですね」。「村に分館が三つも独立している事はうらやましいですね。」と云ってお帰りになる。八、四八〇人皆の公民館です。現在ある建物や備品を大切にし、大いに活用し、そして、皆で子供の為に分館を開放するボランテア精神も返礼ではないでしょうか。（山崎）